

家族間コミュニケーションと子供の将来的思考性の関係

1220464 野口 和佳奈

指導教員 小谷浩示

研究背景

人類が世の中にイノベーションを起こし続けるために重要なのは、将来的思考である。物事を現状維持以上の状態にするため、人々はより良い未来を見据えて変化を起こそうとする。つまり、将来的思考なくして、社会の進化と未来の持続性を担保する事は出来ない。既存研究では日々の暮らし・職業活動と将来的思考性との間に強い相関があると報告されている。一方で、人間の日々の暮らしの根幹である家族間コミュニケーションとその子供の将来的思考の関係性に資する分析は行われていない。

研究目的

本研究は家族間コミュニケーションにおいてどのような要因が子供の将来的思考に影響を与えているのか分析する。

調査・分析方法

親子の思考が似る傾向にある事に着目し、個人の将来的思考性は家庭内のコミュニケーション内容・頻度・時間と強い関係性がある、と仮説を設定する。本仮説を統計学的に検証する為、115人の学生を対象にアンケート調査・データ収集し、統計解析を行った。

分析結果

分析の結果、家族の事を理解していると云う認知度、家族と家庭の将来計画を話し合う頻度が、子供の将来的思考性を高める決定要因であることが示唆された。

考察・結論

本研究の結果に基づけば、家族間の会話内容・頻度・時間に関わらず、子供が家族のことを理解しているという認知度が高いほど子供の将来的思考性が高まる、と言える。